

第 8 期 第 2 回足立区あらかわ市民会議 議事概要

■日 時：平成 23 年 11 月 8 日（火） 14:00～16:00

■場 所：足立区役所本庁舎南館 4 階 作業室

■参加者：構成員 15 名、事務局 7 名、オブザーバー 1 名

- 議 題：1. 開会
2. 議事録確認委員の選出について
3. 討議
（1）現地視察会（9/30）の報告
（2）地区別計画について
4. 報告・情報提供
（1）代表者会議の報告
5. その他
・ 次回の開催予定日

－ 議 事 －

○出された意見、●行政委員からの説明、→事務局からの説明

1. 開会

- ・ 10 月 1 日より荒川下流河川事務所調査課長になった檜森氏よりあいさつがあった。

2. 議事録確認委員の選出について

- ・ 小林委員と永田委員が選出された。

3. 討議

(1) 現地視察会（9/30）の報告（資料 1）

- ・ 足立区より 9 月 30 日に行われた現地視察会について説明があった。昨年末から地区別計画の検討を進めてきて、意見が出た部分の現地を回った。10 名の委員が参加した。当日アンケートに書かれた意見の中からいくつかを【主な意見】として載せている。1. 新田・堀之内ブロック：視察の後に新田でイベントがあり、草刈りの作業中で草が残っている部分ときれいに刈り込まれた部分があった。写真右の場所は検討会では多目的地として位置づけ、スポーツ等にも利用できるようにして行く。2. 小台・扇ブロック：ほとんど車窓からの見学だった。左の写真の自然地は、虫がいながら周りのヨシを刈りこんでいき、維持管理を行っている場所である。右の写真は新田ブロックにあるいくつかの土砂仮置場のひとつである。3. 西新井・本木ブロック：別資料で本木ワンドの草刈りについて報告があるが、いろいろ話が出た。視察前に市民会議委員に草刈りをやってもらい、水辺まで降りることができた。千住桜木地区大規模自然地は足立区、墨田区、荒下で自然地の維持管理の検討を行っている場所である。桜堤の右側の写真は平成の早い時期に植えた桜、左は昨年植えた木である。4. 大川町・梅田ブロック：千住新橋のたもとの上流左岸の所に自然地があり、ホームレスがいたが、荒下に整備をしてもらえるとということで、刈りこまれている。水辺に降りられるようにしてほしいという意見があった。5. 日の出・足立プロ

ック：五反野ワンドは足立区の中でも早い時期に整備された場所である。一時はアシで覆われていたが、いろいろな方の協力で水を見ることのできる状況になった。右岸 JR 線下流中規模自然地の線路の高架下は、10 月の花火大会の時刈りこんでもらったが、ブルーシートがかなり出てきた。

- 台東区から転入して来た。台東区でまちづくりに関わっていたが、要望をぶつける場として参加する人が多い。足立区は自分たちでこうしていきたいので、一緒にやっていきたい、力を貸してほしいと自分のメッセージを持って、住民と自治体とのパートナーシップで作られていくことに感心した。自分の生活の時間をかけてやっていることがすごい。
- 我々は足立区でやってきて他の地域と比較できないが、いい所は伸ばし、悪い所は改良していかなければならない。
- 千住新橋の上流の広場は囲われていて一般的には入れないことになっているが、石段があるので五反野ワンドより水辺に近づきやすい。来年の足立区 80 周年に向けて、子どもたちが行ける場所にしたい。足立区が浮浪者にどいてもらい、今は入れないようにしている。市民会議として何とか施設にしたい。
- 地区計画でどうするか意見が出ると思う。
- 本木ワンドの占用期間の満了が 9 月 30 日であったが、前回の市民会議の意見を踏まえ、もう 1 年占用を継続した。委員が中心になって本木ワンドの草刈りを実施されているが、占用区域外のゴミの問題を抱えている。また、ゴミの収集と合せて委員から鳥類調査の結果報告があるとのことである。

・委員により本木ワンドの鳥類の調査の結果が報告された。2 年間調査したデータである。調査した理由は、ゴミ拾いや子どもたちのカニとりのためにはヨシを刈る必要があり、ワンドの手入れと生き物の動向をみてみようと思った。本木ワンドとその周辺は干潟、ヨシ等の高茎草地、ゴロタ石があるのと、グラウンド、イネ科の低茎草地があるのでサギ類、カモ、シギ、チドリの水鳥、カワセミ、ホオジロ、カワラヒワ等アトリ類や草地系のウグイス、草地や疎林等ちょっとした木を好む鳥が多かった。猛禽類ではオオタカ、サシバ、チョウゲンボウ、トラフズクの 4 種が確認された。トラフズクは猛禽類による食痕、羽が落ちて食べた跡があり、そこにいたことが確認された。秋から冬にはハト、カモ類の食痕が見られる。猛禽類が刈り場としても利用している。シギ、チドリ、カモ、サギ、ワンドの正面から下流東側の干潟をエサ場としている。木工沈床を休憩場所にしていて、脅かさない限りは逃げない。グラウンドの周辺、ヨシではない低茎草地で春から秋に花が咲くと虫が来るので、鳥のエサ場にもなっている。カワラヒワ、スズメ、ホオジロ、アオジ、特に繁殖期には実をついばんでいた。ビオトープでは、デコボコしている方が多様性においては良いといわれているが、ワンドを管理することで、日当たりの良い場所ができたり環境に変化が出て、いろいろな草も生えてくる。生物多様性、エッジ効果ということばではあるが、きれいに管理されたグラウンドがゴルフ場からテニスコートの所があるが、その隣にヨシ原の間に管理があいまいなグラウンドがある。イタドリ、低木、人の利用場と生き物のくらし場の緩衝帯があって、エサ場になっている。本木ワンドでアカミミガメ、大きいミドリガメが卵を産んだりしている。元々この場所は多様な生物を意識している地区計画

になっているので、将来像の方の地区計画では全域をヨシにするのかどうか分からないが、大規模自然地ということがかっこになって一応終わる。資料2, P.34のL02で真ん中だけが赤で実現となっている。鳥や生き物の動向を見た時に、細かい地区計画は練られていないということだったので、現状の本木ワンドのある所を桜並木もあるので見通しのよい形にして、自然観察エリアとして子どもたちもバッタ等取れる野草系広場で、西新井橋側を保全エリアとする形がどうなのかなと観察したメンバーも言っている。

- これは鳥の専門家が。
- 鳥を知っている人が2年間観察してきた。
- 表の中にトラフズクはない。
- 35番のコミミズクはトラフズクの誤りである。
- 何月に確認したか入れてもらえると助かる。委員の中には鳥の専門がいる。
- びっくりするくらい多様な鳥がいてすばらしい。引き続きぜひ鳥たちが来てエサを取ったり採取したりすることができればと思う。
- オオタカは目視したのか。
- 何度も見ている。
- 結構いる。
- 足立区でこれだけの鳥が来るのは、ここくらいではないか。
- 反対側の樹林の影響が大きい。対岸に柳が多いので、飛んでくる。
- 緑地ネットワークを考えると、ある場所が大事な意味を持つ。全部一律のアシ原ではなく、いろいろとあった方が生き物は多様性が出る。
- 今後、桜がここに植わってくることも踏まえて考えた方がいい。アクセスが悪いので、循環バスや船で渡す等、経済的な効果も含めてまちづくりを踏まえてという話も出た。
- 循環バスが通っている。
- 通っているが、バス停から歩く。本木ワンドの前で降りるものがあるといい。本木ワンドを降りた所にセブンイレブンができて、大家が釣りをするので、地域的な方々の協力もできそうである。
- 尿入りのペットボトルとは何か。意味不明である。
- 5~6年ゴミ拾いしているが、荒川が多く江戸川は少ない。高速道路が横切る数が荒川の方が多い。首都高はトイレに入れない。トラックは車高が高いので投げやすい。一度、堀切を掃除中に45リットルの袋が上から降ってきたことがある。橋から投げ捨てる人がいる。どう解決するかはわからない。
- 高速から投げたら土手のあたりに落ちるのではないか。
- 本木の場合、流れ着く。台風の後はずごい。堀切も多い。江戸川は少ない。江戸川は水門があるので海からは来づらい。放射能も心配である。
- 放射能は測定していないのか。
- していない。江戸川は測定して大丈夫だが、荒川は水門がないので心配である。
- 国交省が測っているだろう。
- 荒川河川敷で緑地の所は公園管理課が測った。0.25マイクロシーベルト以下で、普段使っている分には問題ない。0.25マイクロシーベルトを超えた場合は、緑地公園施設については除染作業をする。綾瀬川以東の方が高い。

- 常磐線沿いに放射能が 15 日に降った。昨日あたりの新聞で、北風が吹き始めたせい、水戸よりも足立区の方の放射線量が高い。今後高くなる可能性はある。
- 江戸川は台風で流れたが、荒川は潮の干満があるから残るのではないか。
- せっかく調べてもらったので、看板等は作らないのか。
- オブザーバーでビジターセンターの人が来ているが、どうか。
- センターでは継続して調査していないので、ここまでの種は記録していない。
- 環境保全課で定期的に荒川の魚や鳥の調査をしているので、それと対比するのもいいのではないか。
- こんなにたくさんいるというのをどこかに示したい。
- 反対側の樹林地帯が影響している。
- 右岸の樹林か。
- そうである。柳が多いので、コムラサキが飛んでくる。
- 何らかの記録をとっておいてもらい、ビジターセンターでこういうものが見られた等、調査データを提供いただきたい。

(2) 地区別計画について（資料 2、参考資料）

- ・足立区より、前回市民会議で各ブロックの検討は終了し、その後 6 月 16 日に第 7 回、7 月 14 日に第 8 回検討会が開かれ、9 月 30 日に視察会が開かれたことが報告された。資料 2 前半のブロック別の内容は既に確認いただいており、P. 56「荒川の維持・管理の考え方」は 6 月 16 日に検討会を実施した。P. 56～58 は全市区共通の内容であり、P. 59 を足立区の検討会で内容を確認した。グラウンド駐車場についてはいろいろな意見が出され、市民会議の場で検討すべき内容になる。6 月 16 日の内容を元に P. 59 の分担表を作成した。「維持管理水準を維持するために実施すべき対策」の河川敷の清掃管理、植物管理、「堤防上部の桜の管理」の五色桜の樹木管理と周辺除草等が足立区として追加した部分である。P. 60 で赤が足立区、緑が荒下の管理に色分けしてある。P. 62「自らできる川づくりの支援の仕組み」の表 5 に項目を挙げた。P. 63 は沿川地区全体共通の内容である。7 月 14 日には全体の最終確認をした。P. 8 の表 1「地区計画における土地利用区分」の利用系を細分して分ける案も出したが、沿川全体にも波及する話なので元に戻し、表に収まらない部分はブロック計画の中において文章で修正した。今後は皆さんの承認をいただき、意見募集を行う。その意見内容を検討し、再度みなさんに確認いただき、荒川の将来を考える協議会で承認いただく。最短では来年 2 月の協議会で承認を得られるような形になれば、冊子としては来年 2 月の日付になる。間に合わない場合は夏の次の回になる。中味で整備中だった所が既に完成した場合は事務的に修正する。まえがきは、これまでは足立区長と荒下所長との連名だったが、区長が一人で書く予定である。それ以外は意見募集のできる状態であるが、他にあれば事務局の長澤まで連絡してほしい。

- P. 21 と P. 7 で「中流部は整備を行っていきます」と記載されているが、実際には中流部は整備済である。下流部に関しても計画はできている。

→修正する。

- P. 7 のゴルフ場跡地の活用については「整備しました」ではないか。先般下流部の計画が

決定し、検討委員会で再確認が行われた。下流部もこの方針に沿っていくときちんと書く。P. 16 で「新東京都民ゴルフ場」となっているが、P. 19、P. 21 では「都民ゴルフ場」となっているので、整合性を持たせるべき。

○P. 62 の表 5 には「6. 企業との連携」もあると思う。

○P. 34 に関する提案は。

○セットで考えた方がいい。対岸の生き物がきている。桜並木ができた時の酔っ払いや用を足す人や、ヨシ原が茂っていった時の危機管理の問題を含めた内容も考えられる。大規模自然地の柳の伐採等もかかってくる。

○大規模自然地と書かれてる本木ワンドの対岸は、荒下で別の委員会でどうするかを検討中で、反映できると思う。桜並木とはどこなのか。

●左岸の都市農業公園から西新井橋までの桜並木を整備している。

○花見客が増えて、酔っ払いが来る。

○そうである。ゴミについては委員さんが。

○会の決定事項ではないが、植えたいという願望があり、ある程度実現したので、区と協働で維持管理で何ができるかを考えていく。区としても桜守のような制度を考えているようである。私どもの団体だけでは限界があるので、すみわけをやって、団体として協力したい。初年度 178 本の桜の育成記録をやり、グラフ化統計化した。すべての所の草刈りはできないが、木の周り 1 メートルくらいはできる。消毒は、使用していい薬剤の問題もあるので、区が作る維持管理の団体の中で決定したものでお手伝いする。

○今の話は P. 59 の「堤防上部の桜の管理」に入っているが、P. 62 に反映されていない。ゴミ拾いだけでなく、除草のことも加えたら。計画はハードで物を作るだけでなく、みんなでマネジメント、維持管理していかななくてはならない。今のような話が大事になってきて、市民がどこでどれだけ参加していくのか、またそれに対して荒下や区とどういうパートナーシップでやるかが大事になってくる。計画は実現するために作っているが、荒下がすべてやるわけではない。

○両岸で見ていくことが大事という話が出たので思い出したが、将来像計画を作った時、鳥が驚いた時に対岸に行くが、そこに木がなくグラウンドではいけないという議論があった。護岸がコンクリートだと波が当たり、アシが洗掘される。今日思い出したので、もう一度きちんと見直す。

○本木地区のヒヤリングがされていない。ここにいる人が町会長をはじめとしたヒヤリング、またグラウンドでスポーツをしている人に本木ワンドに関心を持ってもらう啓蒙活動。どうやって関わってもらうか。市民会議がなくなると意識する人がいなくなり、金をかけて作ったのに。

○来春、桜堤の桜は咲くのか。

●小さいが、いくつか花びらはつく。咲くことは咲くが、少ない。平成のはじめに植えたものや都市農業公園のものは咲く。

○扇大橋のものは咲かない。

●花見をするほど大きくない。

○3 年くらい先だ。

- あと5年くらいかかる。
- まだ慌てなくていい。実際に人が来てみないと、わからないし検討できない。
- 計画の見直しが一番最後にあった。予想と違ったり、人の動きが違ったりすることもある。
- 心配しているゴミのことは3年先ではないか。
- ゴミよりも夜の利用が増えるのは間違いない。セブンイレブンで買って来る。
- それに対するマナー。
- それを含めて考えないと、来てからでは遅い。
- 公園課で掃除してくれるのか。
- 定期的に掃除はしている。今の日本人はソメイヨシノが好きだが、ここはソメイヨシノは一部だけで、サトザクラが中心である。時期が長いので3月終りから5月連休はじめまで。人が集まるかわからない。
- 許可したのは公園課だ。私は反対した。
- ゴミ等の課題はたくさんある。私どもの団体は他団体で勉強させてもらっている。ゴミ等が心配だったら、ワークショップを作って、先進事例にならって話したほうがよいのではないか。
- P. 35 や P. 28 の「桜並木の形成」が、P. 34 のように抜けているページがある。西新井橋の上流の両岸が大規模自然地なのはここだけである。
- 大規模自然地なので、船は減速して走らなければならないが、守られていない。
- 3月11日の東日本大震災から、帰宅難民解消策として水運を考える議論が活発になってきている。足立区だけの構想では進められないので、国交省が音頭をとって動かなくてはならないが、将来この議論の中に踏み込んでいく必要があると一言入れてほしい。
- 小菅の左岸にリバーステーションを作っている。右岸は新田に作っているのだから、そこから緊急物資を運ぶ計画をしている。
- 3月11日の震災時、東京都の船着場が使われなかった。国交省や区等が管理している船着場をどう活用していくか、関係者が協議会を作り議論している。民間の船がどこまで上がれるか、私どもの船着場に着くのが困難でないか、実験をしていく。
- 足立区内の船着場はP. 45にあるが、ネットワークで機能しないと意味をなさない。
- 荒川は底が浅いので大きい船が通れないと聞いた。川の深さは大丈夫なのか。
- 荒川下流の管内は、川岸で浅いところはあるが、タンカーは通っている。客船は、京成で低い所等では満潮時に上がつかえてしまう。底よりも上がきつい。江東区で河口に大きな船着場を作っているが、大きな船から小さな船に積み替えて物資を運ぶ考え方をしている。
- 京成が直れば、大きな船が通れるようになるのか。
- 橋はたくさんあり、すべて付け替えるわけにはいかない。
- 見学会の感想で、五反野ワンドはたいへんよく管理され自然が十分に残っているとある。ここは足立区が植生の調査を兼ねて草刈り等定期的に行っている。他の所もここに従って計画ができるようにしてほしい。
- モニタリングした結果を活かす。
- 草は刈っただけで、予算がないので刈りっぱなしで、残っていた。徹底的にきれいにしてほしい。
- 刈った草を残すのは悪くはない。

- 管理は草は刈ったままの状態、集草はしていない。それは費用がないからではなく、基本的な考え方である。緑のリサイクルでやっている。五反野ワンドは自然地の回復を目的に作ったので、モニタリングして管理方法を考えてやっている所で、他の自然地と成り立ちが違う。荒下と協働して最初に作った自然地である。
- 上流部の草刈りをして、網を張り、周りのゴミもとって子どもたちが水辺に出られるようにした。資料1の4. 梅田ブロックの階段がある所に関して、見学会で木工沈床という話が出たが、五反野ワンドのような整備が望ましいというのは、木工沈床は入れないという理解でよいか。
- 今日は担当者がいないため、わからない。
- 千住新橋のすぐ上流の所は砂利になっている。以前見学した時の担当課長は、こういう所は少ない、貴重だという話をしていた。別の人は考え方の違いだという話だった。どのような工事するのか。
- まだ情報をつかんでいない。情報を仕入れてくる。
- すべてを木工沈床にするとヘドロ化する。
- 本木ワンドでは木工沈床に鳥がとまっているが、これくらいヘドロが溜まっている。子どもたちが入れない、危ない。水に降りられる所を残せば。
- P. 35は印刷の関係で写真が出ていないが、きちんと出るようにする。
- 京成電車の鉄橋の嵩上げはどのような状況か。
- 事業採択され、改築に向けて進めている。改築に先立ち都の条例でアセスをしなければならぬ。今アセスのための資料を整理している。資料に3年かかる。来年一杯アセスになる。それが終わり、設計に入る。
- 最短でアセスが終わった後、用地買収が始まり、いつ頃完成か。
- 完成目標が平成36年である。
- 両岸が自然地であることの重要性を考えると、P. 28の土砂仮置場は「工事の進捗により、仮置きする必要がなくなった際には自然地などの利用方策について検討する」とある。一つは、何らかの工事があり、いつ頃かわかっているように見える。二点目は、ここは元々自然地だったので「自然地などの利用方策」ではなく「自然地への復元」「自然地の再生」ではないか。両岸が大規模自然地と一体化していることは大きな意味があり、計画で見据えておく必要がある。
- 二点目の方は決めていただければと思う。一点目は、今荒川下流で堤防の質的強化、堤防を太くする工事を行っている。直接土を持って来るのは難しいため、仮置場が必要になる。10~20年というスパンがかかる。もう一つは高規格堤防事業で、今後進める話になると、大量の土砂が必要になる。10、20年という単位で自然地にできるかは約束できない。他に確保できれば別だが。
- 別の場所というのは河川敷なのか、荒川下流の中の別の優先道なのか。通勤の人が残土置き場を見ているのがいいのか、すばらしい自然地が実現する方が国民利益になるのか、少し考えてほしい。
- 過去の工事の時に、四角く切り取って深くなった時、水鳥が来た。また埋められたが。
- 今後の予定は。
- 広報12月25日号に載せ、1月15日まで意見募集し、来た意見の内容を確認し、市民会議

委員にもみてもらうのが1月下旬から2月初めの予定である。将来を考える協議会が2月初めなので、時期が微妙である。間に合えば協議会で承認が得られるようにし、難しい場合は夏の協議会で承認を得る。

- 足立区は他地区より先行していると聞いた。面積が大きく、検討する内容が多いが、皆さんのお蔭でできた。
- ゴミ拾いをやっているが、ゴミ袋が不足している。河川敷で拾ったゴミがどうリサイクルされるか南部の公園課に調べてもらった。リサイクルした時の金を維持管理費に充てられないか。河川敷で拾ったゴミでゴミ袋代を捻出できないか。
- 南部公園で確認したというが。
- ビンとペットボトル、アルミ缶はリサイクルされていると聞いている。
- 区が業者に委託してリサイクル業者に持って行っている。ホームレスは作業のマージンでもらっている。区は委託することで人件費がかかり、持ち出しになっている。
- 分別する人件費か。
- 委託する人件費で、収集、運搬、ガソリン代等かかっている。区では必ず赤字になる。別のルートを考えないと、収入には結びつかない。
- 子供会でリサイクルをやっているが、ペットボトルやスチール缶はお金にならず、アルミ缶、新聞紙、段ボールは対象となる。ビンもダメ。そこから資金を捻出するのは難しい。
- 委員さんがボランティア活動でやっているなら、袋代くらい・・・。
- 河川敷でボランティア清掃したものは、粗大ゴミ以外すべて区で処理している。占用地もそれ以外もそうである。区としてはつらいところで、元々は東京都に清掃事業がありボランティアシールがあったが、区の環境部にはそういう制度はないようで、占有者、施設管理者がボランティア対応までしている。できれば国交省にお願いしたい。
- 河川敷のペットボトルは汚い。
- ゴミの分別やリサイクル工場を市民会議で見学に行く。拾ったものはどうなるのか知らずにやっているの、子供教育にもなる。
- 費用対効果で考えるべきものなのか、少なくとも市民運動的な発想で生じる努力をみんなで共有するという認識に立つのかの論議ともからむ。考えてみる糸口を提示するのは大事なことである。
- 委員さんたちが拾って、そういう所に持って行って、やってみたら。

4. 報告・情報提供

(1) 高規格堤防について（参考資料）

- ・荒川下流河川事務所より、高規格堤防の検討会の経緯と結論の説明があった。P.4の2の二つ目の・が大きなとりまとめの概要である。高規格堤防の整備区間はゼロメートル地帯や密集した市街地で浸水深の大きい地域を防護する区間などに絞り込み、浸透・浸食については浸透対策を積極的にやっていく。
- スーパー堤防はやめると言ったが、大事な所はやるということか。
- ゼロメートル地帯や密集した市街地というと、足立区だと千住地域だが、そこまで具体的にはなっていないのか。
- 具体的な場所は決まっておらず、方針が決まったのみである。

(2) 代表者会議の報告（資料 3-1, 3-2）

・荒川下流河川事務所より、2 回の代表者会議の報告が行われた。今後の市民会議のあり方が2回の会議の議題だった。第7回会議では、北区の子どもの水辺の利用と維持管理のしくみについての説明もあった。今後の市民会議のあり方については、地区別計画を1年で策定することは了承された。策定後一旦市民会議を休止し、整備計画案のための意見を聞く場に移行することもよいが、聞く場がどんな内容か詳細に議論していないので、それについては今後荒下に提示してほしい。それについて、次回議論する。整備計画の事務局は荒下だが、事務局から区が抜けることには反対意見が出た。身近な窓口は市区で、自治体が積極的にからまなくなるのはいやだ。また、公聴会で意見を吸い上げる形ではなく、市民会議の会議体を残してほしい。会議体さえ残れば、名称や多少の規約の変更は構わない。次回は12月9日で、聞く場の具体的内容を荒下が提案する。

- 資料に書かれている足立区の意見は三井さんのものか。
- 市民会議は無くなり代表者会議だけが残るのは、基礎が無くなるものだからあり得ない。また、長期間開かれなくても、市民会議は存続してほしいという意見が多かった。今のような開かれた場は意義があるので、残してほしい。
- 次回代表者会議も三井さんに継続して参加いただきたい。
- 12月9日の議題が決まっているので、私はオブザーバーとしての意見は言ったので、議論して三井さんに足立区の意見として発表いただいてはどうか。ワーキンググループを一度開いて、三井さんの個人的な意見ではなく、足立区の意見をまとめてはどうか。

5. その他

→次回市民会議は1月下旬で考えている。

○意見を聞く会は11月28日か12月1日かどうか。

○区から会議室を貸してもらえるか。

→用意する。場所については開催通知でお知らせする。

○11月28日14時から2時間程度、12月9日に向けての意見をまとめたい。

○意見を考えて報告する。

○今のままでは市民会議はなくなるので、どうやって保つか。今の市民会議が意見を聞く場としてふさわしくないなら、ふさわしいような方向性を考えなければならない。

・12月17日に日米桜交流100周年シンポジウムを行う。午前は冬桜を見るバスツアー、午後は綾瀬プルミエで行う。

以上